

| 学 校 経 営 計 画 (4月)  |      |   |   | 評価 (3月)  |  |
|---|------|---|---|--|--|
| 学校運営方針  |      | 教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、心身ともに逞しく、豊かな人間性と創造性を備え、国家の繁栄と人類の平和に寄与する生徒を育成する。   |   |  | A  |
| 昨年度の成果と課題   |      | 今年度重点目標   |   | 具体的目標  |  |
| <p>教育活動全体を通して嘉穂高生としての自覚を持たせ、人としての「気高さ」を有する生徒の育成に向けた指導を充実させることができた。</p> <p>能動的な学びの場を取り入れるなど生徒の実態に即した授業改善を図り、第一進路希望実現に向けた学力の向上を図る。</p> <p>歴史と伝統を踏まえ、中高一貫教育校としての体制を確立し、地域の期待に応える教育活動を実践していく。</p> |      | <p>1 すべての教育活動の中で人間としての「気高さ」を追求する指導を行う。</p> <p>2 生徒の意欲を引き出す丁寧な指導を行い、生徒の希望進路を実現して、地域の信頼に応える。</p> <p>3 様々な生徒の個性や能力を伸ばし、学力のみならず、部活動や行事等の活性化を図る。</p> <p>4 『嘉穂ドリームコンパス』を推進し、生徒が夢をもって学習に取り組むための事業を実施する。</p> <p>5 中高一貫教育校としての教育内容を充実させ、地域の教育に対する期待に応える。</p> <p>6 「鍛ほめ嘉穂メソッド」を推進し、自尊感情を高め逆境に立ち向かう力をつける指導を行う。</p> |   | <p>1 嘉穂高生としての強い自覚と誇りを持ち、人間としての「気高さ」を重んじる生徒を育成する。</p> <p>2 文武両道の精神を重んじ、豊かな情操とともに、逞しく生きるための知力・体力・精神力を備えた生徒を育成する。</p> <p>3 真理と正義を愛し、生命あるものを尊び、「思いやりの心や共に生きる心」と「人権」を尊重する生徒を育成する。</p> <p>4 日本文化と伝統を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、社会の発展に貢献せんとする「志」のある生徒を育成する。</p> <p>5 高い目標を掲げて粘り強く努力し、将来の地域や日本を担う、強いリーダーシップを持つ生徒を育成する。</p> <p>6 広い視野を持ち国際社会で信頼されるために必要なコミュニケーション力や異文化理解の態度を備えた生徒を育成する。</p> |  |
| 各 部   |      | 今年度重点目標   |   |  |  |
| 1 教務部   |      | 豊かな創造性と個性に富み、積極的に自己実現を目指し、あらゆる機会をとらえ「学び続ける意欲」と「粘り強さ」を備えた「衝天の意気」を有する生徒を育成する。   |   |  |  |
| 2 生徒指導部   |      | 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念や豊かな心を持ち、公共の精神を尊ぶ道徳性と規範意識を身につけ、自尊感情が高く、他者を深く理解できる生徒を育成する。   |   |  |  |
| 3 進路指導部   |      | 真理と正義を愛し、常に高い目標を掲げて、何事にも真摯に取り組む姿勢と確かな学力を身に付けるとともに、広い視野と行動力を持ち、社会や地域の発展に貢献せんとする「志」ある生徒を育成する。   |   |  |  |
| 4 研修部   |      | 教師の教科指導力や生徒指導力等を高め、PTAや同窓会を中心とした地域の教育力を活用し、人間としての「気高さ」を追求するとともに、嘉穂高生としての気質と確かな学力を兼ね備えた生徒を育成する。  |   |  |  |
|   | 評価項目 | 具体的目標   | 具体的方策   | 評価(3月)   | 次年度の主な課題   |
| 教<br>務<br>部   | 教務課  | 1 生徒の第一進路希望実現に向けて、多様な生徒に対応できるカリキュラム編成と、中高6年間を見通した計画的な教科指導法を研究する。  | 1 自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成に向け、大学入試改革の方向性を鑑み、多様な進路に対応できるように、柔軟な視点から教育課程を検討する。教科バランスや科目の評価・検証を行い、今後の方向性と方策を考える。                 | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種調査や考査成績等の迅速な処理、諸帳簿の厳密な記入をさらに徹底する。生徒状況の正確な把握をもとに、生徒へ有益な情報を適宜還元し、出席・学習状況の改善を図る。</li> <li>内進生進学を見据え、指導内容や教授法の共有の推進、考査問題の内容や作成方針・処理形態の検討を各教科に依頼する。</li> <li>調査書と指導要録を連動させたデータ管理を目指す。</li> </ul> |
|   |      | 2 生徒が主体的・能動的に学ぶ姿勢の育成と、生徒の深い学びを促す授業展開、教師の指導力向上を目指す。  | 2 主体的学習習慣の確立に向けて、定期的に学習時間調査を実施。1日平均3時間以上の家庭学習時間を達成する。次年度の内進生進学を見据えて、中高で指導内容・教授法を共有し、教科書選定、考査問題の作成形態等に関しても中高合同で協議する。 | B  |  |
|   |      | 3 迅速な成績処理、厳正な公簿管理により、生徒の円滑な学習活動を助けるフィードバック、情報提供を適宜行う。   | 3 考査成績や各種調査等を迅速に処理し、生徒の学習を適宜督励する。進路指導課と連携しながら、総合的な学習の時間の充実を図り、生徒の向学心を高め、進路目標確立につながる有意義な情報提供を行う。                     | A  |  |
|   | 図書課  | 1 生徒の読書意欲を高め、読書する習慣を身につけさせ、読書を通じて広い世界を学ぶ心と豊かな想像力をはぐくみ、自ら学ぶ力を育成する。   | 1 図書館オリエンテーションを実施し、図書館を利用しやすい雰囲気を作り、読書意欲を喚起する。  | A  |  |
|   |      | 2 芸術鑑賞を設定し、優れた芸術に触れ、芸術への興味関心を深めさせるとともに、豊かな人間性を形成する一助とする。  | 2 朝読書の意義を理解させ、静かに集中して読書をする習慣をつけさせる。   | B  |  |
|   |      |   | 3 芸術鑑賞を通して本物の芸術に触れる機会を与え、芸術に対する理解を涵養する。   | A  |  |
|   |      |   | 4 保存用の資料収集を継続し、管理の仕方を徹底する。  | A  |  |

|       | 評価項目  | 具体的目標  | 具体的方策   | 評価(3月) | 次年度の主な課題   |
|-------|-------|--|---|--------|--|
| 生徒指導部 | 生徒指導課 | 1 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の基本に据え、嘉穂高生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒を育成する。     | 1 全校朝礼・始業式・終業式において国歌・校歌を斉唱させ、規律や礼節を重んじ、気高さや品位に満ちた態度を養う。   | A      | A<br>・学校の中核となる生徒会役員や部活動生の意識の向上をさらに図る。<br>・全教職員で共通認識の下、風紀検査や登下校指導等行うことができたので更に継続させていく。<br>・課題としては、規範意識の低下がある。次年度は、特に携帯電話の使用やマナー向上を図り、「静止礼」を推奨し、嘉穂高生としての自覚を持たせ、人としての「気高さ」をさらに育成する。       |
|       |       | 2 規範意識に優れ、自浄能力を持つ学校及び生徒の育成に努める。                                  | 2 規範意識育成講演会・交通安全講話・自転車点検・駐輪場指導の実施と風紀検査・登下校指導に全職員で定期的に取り組み、登下校時(自転車・バス利用・送迎等)のマナーの向上及び規範意識の向上に努める。 | B      |  |
|       |       | 3 自立心と思いやりの心、逞しさを身に付けた生徒の育成に努める。                                 | 3 部活動の更なる活性化を図り、「文武両道」の実践と心身の健全な育成をする。集団活動を通して、他者を思いやる心を培う。                                       | A      |  |
|       |       | 4 生徒会を中心に学校行事の企画・運営を行い成功させる。                                     | 4 生徒会役員を中心に潤陵祭・大運動会等の学校行事の企画・運営を行い、質的向上と指導力の育成を図る。  | A      |  |
| 保健課   | 保健課   | 1 自己の健康状態を把握し、健康の保持増進を自ら確立できる生徒を育成する。                            | 1 スクールカウンセラーによるカウンセリングを年に9回実施し、生徒・保護者の心の健康を図る。  | A      | B<br>・ストレスマネジメント講習会を計画的に実施する。<br>・生徒に対してがん教育の一環として、講演会を実施する。<br>・職員に対してAEDの研修会を実施する。<br>・職員に対して合理的配慮について、不登校生徒への具体的声かけ等の研修を行う。<br>・除草作業の際には事務室と連携をとって、業者に効果的にしてもらおう。<br>・紙のリサイクルを促進する。 |
|       |       | 2 生徒の心の健康を図り、自己の健康管理意識の高揚を計る。                                    | 2 健康に関する相談事業を学校行事に合わせて適宜実施し、生徒の充実した学校生活をサポートする。   | A      |  |
|       |       | 3 特別な教育的支援を必要とする生徒への合理的配慮を推進する。                                  | 3 特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、あらゆる教育活動の場面で合理的配慮をするように努める。また、AEDの研修やアナフィラキシー補助治療剤アドレナリン自己注射薬エピペンの研修を行う。   | B      |  |
|       |       | 4 美化活動をとおして、愛校心や公共物を大切にす精神を育む。                                   | 4 美化委員会と連携しながら、美化コンクールを通じた校内美化と、ゴミの減量化・リサイクルを推進する。  | B      |  |
| 進路指導部 | 進路指導課 | 1 社会や地域に対して常に貢献できる人材をつくり、希望進路に向けて努力する姿勢を育成する。                    | 1 進路講演会や出前講義などのキャリア教育を実施することで、適切な進路情報の提供を行い、生徒や保護者の進路意識を高めていく。                                    | A      | A<br>・KDCでの創志セミナー、一日総合大学では、進路課が主体となり学年と連携して実施する体制を維持する。<br>・スタディーサポート事後学習会を継続実施し、学力の伸張と教員間の問題意識共有を促す。<br>・難関大講座を次年度も継続する。<br>・人権教育授業の中で共感力や主体的に学ぶ姿勢を育む。                                |
|       |       | 2 進路実現のための学力を身に付けることのできる生徒を育てる。                                  | 2 課外授業・土曜講座・模擬試験・英語資格試験を効果的かつ効率的に企画することで、生徒の第一志望への進学を増やす。   | A      |  |
|       |       | 3 自他の人権や生命をしっかりと尊重し、積極的に行動できる生徒を育成する。                            | 3 自他の人権を尊重する意識や態度を育成するため、年4回の人権教育授業やホームルーム活動を通して、生徒への働きかけを継続して行う。また職員研修の充実を図り、職員の人権感覚を高める。        | A      |  |
| 情報課   | 情報課   | 1 ICT機器を活用した授業の推進  | 1 パソコン、電子黒板、プロジェクタ等ICT機器の利用率を高め、生徒が主体的・能動的に学習する授業を推進する。   | A      | A<br>・プロジェクタの老朽化に備えて本年度は5台新規購入してもらい、3台入れ替え、1台新規配備出来た。次年度以降もこの準備が必要である。また、接続コードの不具合に対処するために接続コードのHDMI化、台車の故障に備えてプロジェクタの運用・保管方法の簡素化を図りたい。  |
|       |       | 2 校務用ネットワークの有効活用   | 2 教材作成や校務に必要な不可欠なソフトウェアや周辺機器を校務用パソコンで利用できるように整備を進める。  | A      |  |
|       |       | 3 学校HPの更新システムの刷新   | 3 本校のHPの更新を、職員だれもが適時に簡便にCMSを利用して行えるよう、システムを改善する。  | B      |  |
| 研修部   | 企画広報課 | 1 関係機関との連携を図りながら、校内における庶務全般を円滑に行う。                               | 1 職員室の座席配置図の作成など、職員室の環境整備に努める。また、食堂との連絡を密にし、校時変更など円滑に伝えられるように配慮する。                                | A      | B<br>・年度初めの職員室等の環境整備の準備を年度末に早めに行う。<br>・防災避難訓練の実施時期、要領を検討し、防災マニュアルをもとに防災教育と、防災管理を一体的にとらえ防災の充実を図る。<br>・体験入学、進路相談事業の実施内容を工夫する。<br>・広報活動を充実させるため、各中学校、塾からの情報収集に努める。                        |
|       |       | 2 防災教育の推進を行う。  | 2 避難訓練計画を再確認し、地震などに対応できる防災避難訓練の実施を図る。また、防災マニュアルを徹底し実践的な防災活動を推進する。                                 | B      |  |
|       |       | 3 中学校・学習塾などへの広報活動を積極的に行う。  | 3 中学生の体験入学、中学生進路相談事業の内容を充実させる。ポスターカレンダーを作成し、中学校・学習塾への訪問を積極的に行う。                                   | B      |  |
|       |       | 4 PTAを中心とした地域社会と良好な関係を維持し、幅広い教育活動を活かして、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成に寄与する。 | 4 各委員会活動の活性化を図り、学校評議委員会や学校関係者評価委員会を通して、地域の声を取り入れ、学校教育に活かす。  | A      |  |

| 評価項目        |  | 具体的目標  | 具体的方策   | 評価(3月) |   | 次年度の主な課題  |
|-------------|--|--|---|--------|---|---|
| 研<br>修<br>部 | 研修課  | 1 「氣高さ」を有する生徒を育成するための指導力の向上を目指し各分掌・学年と連携を図りながら、有意義かつ計画的な研修体制を確立する。<br>2 「力をつける授業」をキーワードにし、生徒・保護者・地域の進学実績向上を目指す。  | 1 中高一貫教育研修など喫緊の教育課題をテーマとする職員研修を年間4回以上実施する。                | A      | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育校として、中高接続に関する内容についての校内研修を一層充実させる。</li> <li>・教育センターや県主催の校外研修会への参加を一層促す。</li> <li>・相互授業参観や授業アンケートの実施方法について改善を図り授業改善の資料として活用する。</li> </ul> |
|             |  |  | 2 指導力の向上を目指すため、校外での各種研修への参加を促す。そのため案内を密し、参加しやすい環境を整える。    | A      |   |   |
|             |  |  | 3 研究授業及び相互授業参観を通じて、教員間が切磋琢磨して授業力の向上を図ることができるようにする。        | A      |   |   |
|             |  |  | 4 定期考査や校外模擬試験の結果をもとに各教科で学習定着度や教授法などの検証を行う成績分析会を定期的実施していく。 | B      |   |   |
| 第1学年        | 1 嘉徳高校生としての自覚と誇りを育成する。また、社会性や規範意識を伴った自立的精神も育む。<br>2 他者を思いやる豊かな人間性を育成する。<br>3 目的意識を持ち、困難をも乗り越えてゆく強い精神力を育成する。                            | 1 嘉徳高校生として、常に周囲に見られていることを自覚し、どのような場でも恥ずかしくない挨拶や服装を徹底させる。また、学校行事や生徒会行事に積極的に参加することにより、学校やクラスの一員であることの自覚を持たせる。<br>2 5分前の精神で、常に時間に対する意識を持ち行動させる。自分だけでなく周囲が学校生活を快適に過ごせるように、ルールやマナーを厳守させる。<br>3 部活動への積極的な参加を奨励し、強い精神力と忍耐力を養う。さらに、進路指導を通して、早い段階から進路意識を持たせ、創志セミナーなどへの積極的な取り組みを促す。  | A   | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事後の切り換えがスムーズにできておらず、学年集会やHR等で指導していく必要がある。</li> <li>・下級生の模範となるような元気のいい挨拶を継続していく。</li> <li>・定期考査前の早い段階から、成績下位層への対応を行い、上位層との差を広げないようにする。</li> <li>・HRや面談等を計画的に行い、進路意識の向上に努める。</li> </ul>  |   |
|             |  |  | B   |        |   |   |
|             |  |  | A   |        |   |   |
| 第2学年        | 1 嘉徳高生としての誇りと上級生としての自覚を育成する。<br>2 『自律型人間＝集団に貢献できる＝他人に迷惑をかけない』の行動を確立する。<br>3 学習に対する基本姿勢の改善と早期対策を行う。<br>4 海外修学旅行の成功。                     | 1 「場を清める」＝ゴミが落ちていたら自然に拾える。<br>「時を守る」＝遅れると他人の時間を奪うことを知っている。<br>「礼を正す」＝下級生(1年生・中学生)への模範となるような丁寧な礼を欠かさない。<br>2 『「人より先に」あいさつをする』＝気付きの促し<br>『呼ばれたら「はい」と返事をする』＝自制心の涵養<br>『イスを入れる・クツを揃える・窓を閉める・戸を閉める』<br>＝慎独(誰も見ていないところでも自ら律する)<br>また、生徒会役員・応援団への積極的な参加を促す。<br>3 「学は人たる所以を学ぶなり」(吉田松陰)であり、学生の本分は学問である旨を徹底させる。そのために、『学習時間の増加』、『校外模試の意識付けの強化』を行う。また、『71期生学力向上プログラム』を確立させていく。<br>4 広い視野を持ち、国際社会で信頼されるために必要なコミュニケーション能力を育成する。具体的には、異文化を理解する態度の育成し、集団に対する帰属意識・リーダーの育成を図る。 | A   | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外修学旅行が無事成功裏に終わったことを第一の評価とする。</li> <li>・美化コンクールで全クラス満点等取組は向上している。「時を守る」に関してはいまだに向上しない生徒がいる。課題としたい。</li> <li>・挨拶はよく出来ている。次年度は、内進生が進級してくることを意識して「静止礼」が出来るよう取り組ませたい。</li> <li>・学習習慣がかなり身に付いてきて、成績向上も見られるが、まだ不足している。学習への早期対策を心がけていきたい。</li> </ul> |   |
|             |  |  | A   |        |   |   |
|             |  |  | B   |        |   |   |
|             |  |  | A   |        |   |   |
| 第3学年        | 1 より良いクラス・学年・学校をつくるために、生徒の主体的な活動を引き出し、延いては社会に寄与する人材を育成する。<br>2 進路目標達成のための取り組みを通して、自己実現を図る。<br>3 学校行事の集大成である潤陵祭・大運動会を成功させ、嘉徳への帰属意識を高める。 | 1 学校行事や日常生活の決まり事など、意義目的を明確にし可能な限り生徒中心に企画・運営・指導等を行う場面をつくる。芯のぶれない取り組みを通し、何事にも「団体戦」で取り組む雰囲気をつくる。<br>2 学習環境を整え、授業や課外の集中力を高めると共に、学校を中心とした学習スタイルを確立させる。<br>3 進路実現に向けて、教師と生徒、学校と保護者の確固たる信頼関係を築く。<br>4 受験勉強に対するモチベーションを高める取り組みを行う。<br>5 学校全体を牽引していく6学年の長として、潤陵祭・大運動会を成功させ、嘉徳の伝統と魂を伝承する。  | A   | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を中心とした学習スタイルをさらに推奨するために、秋の自学セミナー等、年度当初から計画する。</li> <li>・安易な遅刻欠席を減らし、学年全体のモチベーションを高める。</li> <li>・生徒との面談時間を確保するため、秋以降のLHR、総学の活用を検討する。</li> <li>・安易な進路選択にならぬよう、先行して指導を行う。</li> </ul>   |   |
|             |  |  | B   |        |   |   |
|             |  |  | B   |        |   |   |
|             |  |  | A   |        |   |   |
|             |  |  | A   |        |   |   |

| 評価項目                | 具体的目標  | 具体的方策   | 評価(3月) |   | 次年度の主な課題   |
|---------------------|--|---|--------|---|--|
| 理数科                 | 1 理数科の特性を活かし、理数系を中心に生徒の学力を伸長させ、進路実現を図る       | 1 所属する学年全体を学力で牽引する役割を担う集団であることを理数科生徒に意識させる。また、他校の理数科との交流を深めたり、生徒の実態に即した外部講師による講演会を聴講させるなどにより、学力の伸長を図る。                            | A      | A | ・SSHが本年度で終了することをを受け、それに変わる取り組みを創造していかなければならない。特に2年で実施する課題研究を通して、生徒の知的好奇心を充足できるような活動を総力を挙げて創造していかなければならない。  |
|                     |  | 2 課題研究を一層充実させる。また、クラス及び学年全体をリードする素質のある生徒を見出し、リーダーシップが発揮できる生徒を育てる。   | A      |   |  |
| 嘉穂<br>Dream Compass | 1 将来、世界で活躍するグローバル人材育成プログラムを確立する。             | 1 3年間行ってきた中高のキャリア教育のあり方を点検・評価し、来年度以降のプログラムにつなげる。  | A      | A | ・SSHが平成29年度で終了するため、SSH推進課が行っていた業務を他分掌に移管し、スムーズに嘉穂 Dream Compass の事業が実施できる体制を整える。<br><br>・今年度までに実施してきたプログラムの内容を点検し、来年度以降の事業を精選して実施する。   |
|                     | 2 中学と連携して、6年間のキャリア教育及び進路指導のあり方を確立する。         | 2 SSH事業の業務分担を各分掌へ移管し、平成30年から各分掌が独自に実施できる体制を確立する。  | B      |   |  |
|                     | 3 嘉穂 DreamCompass 事業を全分掌・全職員で実施する体制をつくる。     | 3 海外修学旅行のプログラムを確立させ、オーストラリア関係機関と連携しながら充実した事前・事後指導を計画する。   | A      |   |  |
|                     | 4 外部への情報発信に努める。                              | 4 2年次の課題研究「未来設計」を含めた嘉穂 DreamCompass 事業の成果を積極的に外部に発信する。  | A      |   |  |
| 武道・日本文化コース          | 1 我が国の伝統や文化を理解させる。                           | 1 我が国の伝統や文化を理解するために、学校設定科目を学習させ、特に「日本文化実習」の充実を図る。   | A      | A | ・「日本文化実習」などの学校設定科目を通して、文化と伝統を尊重し、我が国と郷土を愛する生徒の育成に一層努めていく。<br><br>・武道・日本文化コースの特色を活かした、講演会をはじめとする行事を継続的に実施する。<br><br>・進路意識を高めさせるために、キャリア教育を行っていく。<br><br>・評価については、引き続き職員間の共通理解を求め、習熟度別授業における確認を徹底する。 |
|                     | 2 学力・競技力で高い志を持たせる。                           | 2 習熟度別授業を取り入れ、生徒の学習モチベーションを高めるとともに、個に応じた指導の充実を図り結果を出す。  | B      |   |  |
|                     | 3 武道・日本文化コースの生徒に相応した「気高さ」を持つ生徒を育成する。         | 3 武道・日本文化コース集会を通して、規範意識を持たせ、コースの中から学年および学校の核となる生徒を育成する。   | A      |   |  |
|                     | 4 国際社会の一員としての資質やコミュニケーション能力を育成する。            | 4 学校行事に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を育成する。また、講演を実施し、生徒の資質向上を図る。  | A      |   |  |
|                     | 5 進路希望実現を図る。                                 | 5 卒業生による進路講演を行うなど進路実現に向けた指導を行う。推薦で進路を決定する生徒が多いので、評価については、一年次から職員間の意思統一を図る。  | A      |   |  |
| 確かな学力の育成            | 1 観点別学習状況の評価及び言語活動の視点を取り入れた授業を実施する。          | 1 次期学習指導要領に向け、国立教育政策所が示した「評価規準作成、評価方法の工夫改善」を参考に評価規準の設定に取り組む。また、評価規準の設定を含めた指導と具体的な評価方法等について継続して研究を行う。                              | A      | A | ・中高一貫校として評価基準の設定を含めた指導体系を構築し、全職員で共有する。<br>・定期考査・実力考査の問題精査を通じて「指導と評価の一体化」を一層図る。<br>・相互授業参観や校外公開授業への積極的な参加を呼びかけ、さらなる授業の研鑽を推奨する。  |
|                     | 2 評価規準を明確にし、指導と評価の一体化に学校全体として取り組む。           | 2 生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導改善に生かすという視点に立ち、効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る。   | A      |   |  |
|                     | 3 生徒の自主的な学習意欲及び教員の教科指導力を更に向上させる。             | 3 相互授業参観や生徒による授業評価を積極的に活用し、教員の意識改革に取り組み、指導力の向上に努める。   | A      |   |  |
| いじめの撲滅              | 1 全教職員がいじめの発生についての危機意識を持ち、その防止に学校全体で問題に取り組む。 | 1 SNSを介したいじめ問題や非行防止に関する講演会や学年集会を行うとともに、職員研修を通して、学校全体で「いじめ問題」に対する情報を共有し、その対応の共通理解を図る。  | B      | A | ・生徒のいじめに対する意識を高め、日頃から周囲に配慮した言動を心がけるよう指導する。<br>・SNSに関する問題については、引き続き生徒の注意喚起を促すとともに職員間でも実情や対応等について協議する。<br>・クラス担任を中心として細やかな生徒観察を行い、いじめの早期発見に努めるとともにいじめを許さない雰囲気をつくる。                                   |
|                     | 2 教育活動全体を通じて、いじめは絶対に許されない行為であることを生徒に認識させる。   | 2 学校生活アンケート(年12回)及び家庭用チェックリスト(年3回)の結果を職員で共有し、生徒からのいじめのサインを早期に発見して適切な対策を講じる。また、特別な教育的支援を必要とする生徒のサインも早期に発見し、教育活動において合理的配慮をするように努める。 | A      |   |  |
|                     | 3 家庭や地域、関係諸機関と連携を図り、「いじめ問題」の早期発見・早期対応に努める。   | 3 学年会議において生徒の状況を常に把握するとともに、「いじめ問題対策委員会」を開き、「いじめ」に対する緊急の対応及び中・長期的な対応を検討し、実行する。   | A      |   |  |